

ATC 施設利用・共同開発研究 成果報告書

国立天文台先端技術センター センター長 殿

平成 31 年 3 月 4 日

下記のとおり施設利用の成果を報告します。

ふりがな： みやたたかし 代表者氏名： 宮田隆志	③所属機関，部局： 東京大学大学院理学系研究科天文学教育研究センター
研究課題名： 研究課題名：地上大型望遠鏡用中間赤外線観測装置 MIMIZUKU の開発	
利用期間：H30年 4月 1日 ～ H31年 2月28日	
利用者リス 宮田隆志、酒向重行、上塚貴史、大澤亮、内山允史、 森智宏、吉田泰（東大天文センター）	
研究開発の成果（ATC 施設利用との関連を具体的に記述してください。） ・MIMIZUKU 搭載中間赤外線用光学部品の評価 MIMIZUKU 搭載の光学部品として使用する窓材・フィルターの測定評価を行った。測定には ATC オプトショップの分光光度計 SolidSpec-3700 およびフーリエ変換分光器 FTIR410 を利用した。 昨年までの共同利用の結果として、2018 年には MIMIZUKU をすばる望遠鏡に搭載、試験観測に成功した。観測結果は現在解析中であるが、おおむね期待通りの性能が出ている。	
施設利用が謝辞等に記された学術論文など（資料を添付してください。）	
先端技術センターの利用設備・実験室等の利用した物品を具体的に記入してください。マシンショップへ依頼したリスト・利用した測定器・CAD 等について記入してください。） オプトショップ ・SolidSpec-3700, FTIR 410 その他、実験時にエレキショップの部品を一部お借りしました。	
先端技術センターの施設への要望等ありましたら、記入してください。	